

○生き物を使ったことわざ・慣用句はどのようなものがあるでしょうか。あげてみましょう。

国語

犬

- ・犬猿の仲（仲が悪いこと）
- ・犬も歩けば棒に当たる
（行動を起こすと思わぬ不運や幸運にあうこと）
- ・（恩をかけた相手にうらぎられること）
- ・犬馬の労（とても相手につくすこと）
- ・犬も食わぬ（全然相手にされないこと）

猫

- ・借りてきた猫（いつもよりおとなしくなること）
- ・猫の手も借りたい（とてもいそがしい様子）
- ・猫に小判（価値が分からない様子）
- ・猫をかぶる（本性をかくすこと）
- ・猫の額（とてもせまい様子）

馬

- ・馬が合う（気が合うこと）
- ・馬の骨（どこの何者かわからない人のこと）
- ・馬の耳に念仏（言ってもききめがないこと）
- ・馬脚をあらわす（正体が明らかになること）
- ・生き馬の目を抜く（すばしこいこと）

蛙

- ・井の中の蛙（広い世界を知らない様子）
- ・蛙の子は蛙（普通の人の子どもも普通の人であること）
- ・蛙の面へ水（平気な様子）
- ・蛙の行列（向こう見ずなこと）
- ・蛇にいらまれた蛙（こわくて動けないこと）

虫

- ・虫がいい（自分のつごうのいいようにすること）
- ・虫の知らせ（予感がすること）
- ・虫が好かない（気に入らないこと）
- ・虫も殺さぬ（上品な様子）
- ・飛んで火にいる夏の虫（自分からひどい目にあつこと）

例

○「つなぐことば」を使ってみましょう。

次の二つの空らんには当てはまる言葉を入れてみましょう。

A 雨が降^ふってきた。(**だから**) 傘^{かさ}をさした。 B 雨が降^ふってきた。(**しかし**) 傘をささなかった。

*このように、文と文をつなぐ働きをしていることばを「接続語^{せつぞくご}」といいます。

Aのように、空らんをはさんで前後の内容がきれいにつながるものを「順接^{じゆんせつ}」、

Bのように、空らんをはさんで前後の内容がうまくつながらないものを「逆接^{ぎやくせつ}」といいます。

国語
それ以外にも「例示^{れいじ}」・「添加^{てんか}」・「説明^{せつめい}」など、いろいろな働きを持つ接続語があります。

○「接続語」に合わせた文を作ってみましょう。

(晩ご飯をごちそうになった。) (そのうえ、)
(雨が降^ふってきた。) (雷^{かみ}まで鳴り始めた。)

(あわててバスに乗り込んだ。) (バスは発車しなかった。)
(屋根から転げ落ちた。) (全くケガをしなかった。)

(ドアノブを握^{にぎ}った。) (ドアが開いた。)
(畑に種をまいた。) (次の日にはもう芽が出ていた。)

(この商品は送料無料です。) (長崎市以外だったら送料がかかります。)
(一人ではここに入れない。) (友だちといっしょなら入れる。)

例